

2018年度

商 学 部

強化プログラム履修案内

公式な認定証が授与されます

英語 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語 数学

テーマを持った履修計画を立てよう

得意分野を見つけよう

より充実した大学生活を送るために、ぜひ挑戦しましょう。

慶應義塾大学

強化プログラムとは

大学で学ぶ4年間を、卒業に必要な単位をただ揃えるだけで終わらせてしまうのはもったいないと思いませんか？ 商学部には、専門科目以外にも、特定分野を系統的に学べる充実した科目が豊富に用意されています。

商学部強化プログラムは、専門分野である商学以外にも何かひとつ、「自分は大学でこれを学んだ」という充実感を持って卒業し、社会人となってからも自分らしさとして得意分野をアピールできるよう、4年間を通しての体系的な学習を応援するプログラムです。履修科目の選択に迷っている人は、強化プログラムの認定を目標として履修計画を立てることにより、自分自身の学習目標を設定し、達成までの道筋を見出すことができるでしょう。ぜひ強化プログラムに挑戦して、自分の「強み」を見つけてください。

強化プログラムには、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、数学があります。

語学の強化プログラムの対象となっているのは、必修の語学科目のほか、地域研究を含む多岐にわたる科目です。バラエティに富んだ科目を体系的に履修し、各言語圏の歴史や文化に関する知識と理解を深めてください。

数学では、必修科目以外に、専門科目を学ぶ上で必要となるスキルや社会活動と結びつく応用力を身につけるための多様な科目があります。これらを履修して、論理と数字に対する自信をつけましょう。

大学で勉強することは必ずしも即効的効果のあるものばかりではなく、卒業後長い時間を経て初めてその価値に気づくものの方が、むしろ多いかもしれません。強化プログラムは、そのような大学における勉学に一定の筋道を与えてくれるものなのです。

★強化プログラムを構成する科目から、所定の条件を満たしつつ、必要な単位数を取得した学生には、「認定証」が発行されます。

本履修案内および強化プログラム関連情報が商学部HPにアップされていますので、参考にしてください。

商学部HP → 「特色ある教育プログラム」 → 「強化プログラム」

商学部強化プログラム履修案内

1 プログラム修了認定のための条件（共通）

- (1) 当該分野の必修科目取得に加え、「認定科目」として指定された科目の中から16単位（自由科目として取得した単位を含む）以上取得する。
 - (2) 上記16単位のうちの4単位（自由科目として取得した単位を含む）以上は、3・4年配当科目から取得する。
 - (3) 修了に必要な科目の履修の仕方については各プログラムの規定に従う。
- なお、各プログラムの事前登録は必要ありません。

2 各プログラムの概要、詳細な認定の条件

各プログラムの概要、詳細な認定の条件については4ページ以降に掲げます。認定科目として開講される科目は年度によって変わる場合があります。毎年4月に発行される「強化プログラム履修案内」を参照してください。

3 認定証発行の申請手続きについて

2018年度に認定証発行を希望する者は、各自以下の手続きを行ってください。

- (1) 認定科目の問い合わせ：ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語の認定科目に含まれるか否かが不確かな科目、本冊子に明記されていない科目については、2018年10月12日（金）までに、「認定対象科目問い合わせフォーム」（3ページ参照）から問い合わせてください（認定科目は当該年度取得見込みでもかまいません）。問い合わせをしなかった場合、当該科目が認定されない場合があります。必修科目や既に履修案内に載っている科目など、認定科目として確かなものについては問い合わせる必要はありません。なお、英語・数学に関しては、認定対象科目はすべて履修案内に載っており、それ以外の科目は認定の対象とはならないため、科目問い合わせは受け付けません。
- (2) 認定申請書提出：2018年10月15日（月）～31日（水）の間に、強化プログラム履修案内添付の「強化プログラム認定申請書」に2018年度春学期の成績表のコピーを添付し、三田学生部商学部担当に学生本人が提出してください。英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、数学と、それぞれのプログラムごとに申請書は異なりますので、自分の申請したいプログラムの申請書を使用してください。この時点では、取得見込みの（申請書提出時において履修中で取得が2018年度に見込まれる）科目も含め申請することになります。今年度秋学期の履修修正申告で認定対象科目を追加した場合には、学事Webシステムの履修申告状況確認画面のコピーをあわせて提出してください。なお、成績表・履修申告状況確認画面上の当該科目には、ラインマーカー等で、明確に印をつけてください。[締切厳守]

- (3) 2018年度秋学期成績表コピー提出：2019年3月15日（金）
提出先：三田学生部商学部担当
成績表上の当該科目には、ラインマーカー等で、明確に印をつけてください。なお、春学期の時点で認定条件を満たした場合には、再度提出する必要はありません。
- (4) 認定証発行：2019年3月29日（金）
4年生：2018年度秋学期の成績表のコピー提出時に、認定証郵送先宛名ラベルを1枚記入します。認定証はその宛先に郵送されます。
3年生：三田学生部商学部担当にて授与します。
- (5) 申請をしたが、単位が未取得あるいは成績が規準に満たないなどの理由で認定が認められなかった場合には、その旨を連絡します。

申請の手続き書類（申請書、春・秋成績表などの書類一式）に不備があったり、締め切り日までに提出がなされなかったものは、2018年度の認定は行われませんので十分注意してください。【締切厳守】

*本年度の強化プログラム申請のために、2018年度成績表のコピーの添付が必要ですので、成績表はなくさないよう注意してください。成績表は再発行されず、また成績証明書とは異なるため、成績表をなくした場合は、申請ができなくなることがあります。

*不明な点、不安な点などがあれば、三田／日吉学生部商学部担当（各自の所属キャンパスの学生部）に相談してください。

英語強化プログラム 履修計画書 (2018年度・日吉用)

英語強化プログラムを履修する1・2年生のうち今年度、英語の「自主強化科目」の履修を希望する学生は、「商学部外国語科目・総合教育セミナー履修案内」(冊子)の「英語選択(自主強化科目)履修希望用紙」の裏ページに印刷された「履修計画書」に記入の上、所定の手続きによって提出してください。

英語強化プログラム修了に向けて、4年間の英語選択科目履修計画を記してください。(計画通りに単位取得できなくても、ペナルティはありません。この計画書を提出することで、当該年度の自主強化科目などが優先的に履修できる場合があります。)

学籍番号	学年	ローマ字氏名					
	科目名	担当教員(分かっている場合のみ記入)	履修予定学年に○をつけなさい。(すでに単位取得済みの科目には◎をつけなさい。)				
			1	2	3	4	単位数
1・2 学年 配当	自主強化科目・その他の総合教育科目 (半期2単位)						
	英語ディスカッション						
	英語ディベート						
	英語アカデミックライティング						
	英語プレゼンテーション						
	英語リーディングセミナー						
	英語リスニングセミナー						
	総合教育セミナー (半期2単位、通年4単位)						
	総合教育セミナー						
	その他の認定科目 (外国語教育研究センター科目・国際センター科目 (海外研修を含む))						
科目が設置されたセンターに○をして科目名を記入							
外・国							
外・国							
外・国							
外・国							
3・4 学年 配当	専攻科目IV類 (半期2単位、通年4単位)						
	関連課題研究						
	外国語演習S(英語)						
	外国語演習S(英語)						
	その他の認定科目 (外国語教育研究センター科目・国際センター科目 (海外研修を含む))・GPP科目)						
	科目が設置されたセンターに○をして科目名を記入(*GPPと国際センターとの併設科目は、どちらでも申請可能)						
	外・国						
	外・国						
	外・国						
GPP科目*							
GPP科目*							
GPP科目*							
GPP科目*							
英語選択科目の取得予定単位数 (英語必修科目8単位に加えて、指定された総合教育セミナー・関連課題研究から4単位以上、3・4年配当科目からの4単位以上を含む、英語選択科目16単位以上を取得してください。)					計		
あなたが大学で英語を学ぶ目的は何ですか。具体的な目標を記してください。							

強化プログラム（英語）

強化プログラム（英語）では、英語運用能力4技能をバランスよく修得し、さらに英語を使って研究・発信する力を養成します。自主強化科目の英語科目（日吉設置）や専攻科目Ⅳ類の「外国語演習」（三田設置）ではスキルを中心に学習し、「総合教育セミナー」（日吉設置）や「関連課題研究」（三田設置）では修得したスキルを研究、発表に用いる場を与えられます。いずれのクラスも少人数ですから、集中して演習する良い機会となるはずです。

また、商学部設置科目以外の科目（外国語教育研究センター、国際センター設置科目）を履修することで、海外研修を含む多様な学習の機会を得ることができます。（諸研究所設置科目の卒業単位への算入については、各自商学部履修案内で確認してください。）強化プログラムに認定されるセンター科目は以下の認定科目（2018年度）を参照してください。

プログラムに認定される科目を履修することで、英語を勉強するばかりでなく、英語で勉強する楽しさを多くの皆さんに経験して欲しいと願っています。

認定の条件（10ページフローチャート参照）

- 1 英語必修科目8単位に加え、後に示す認定科目の中から16単位以上を取得する。ただし、次の（ア）、（イ）の条件を満たすこと。
 - （ア） 3・4学年配当科目から4単位以上を取得する。
 - （イ） 日吉設置の「総合教育セミナー」、三田設置の「関連課題研究」の認定科目の中から4単位以上を取得する。
- 2 上記の条件を満たした時点（あるいは満たす見込みの時点）で各自が添付の申請書によって申請できる。
- 3 認定証の発行に関する学年の制限はありません。

*強化プログラム履修学生は「履修計画書」を提出してください。

認定科目（2018年度）*1

〈1・2学年配当〉

◆ 「総合教育セミナーD・S」【総合教育科目Ⅱ類】の内、英語で行われる以下の科目

- 「総合教育セミナーD・S」（各4単位あるいは2単位）

「Psychology in Business」 森吉直子

「History and International Relations: Examining How Our Culture Shapes Our Understanding of History and the World」 クラシゲ ジェフリー ヨシオ

（2018年度は休講）

「Intercultural Communication Training」（異文化間トレーニング） 吉田友子

「Representative Films about India in English : Message, Context & Critics」

ハンリー マシュー M.

「The Discourse of Advertising」 シェイ デビット

- ◆ 自主強化科目【総合教育科目Ⅳ類】の以下の科目（各2単位）
 - 「英語ディスカッション」
 - 「英語ディベート」
 - 「英語アカデミックライティング」
 - 「英語プレゼンテーション」
 - 「英語リスニングセミナー」
 - 「英語リーディングセミナー」
- ◆ その他の総合教育科目【総合教育科目Ⅱ類】の以下の科目（各2単位）
 - 「文学Ⅰ」ハンリー マシュー M.
 - 「文学Ⅱ」ハンリー マシュー M.
- ◆ 外国語教育研究センター設置科目【総合教育科目Ⅲ類】の中の指定科目（各1単位、春・秋セットは2単位）（指定科目については8ページ参照）
- ◆ 国際センター設置科目【総合教育科目Ⅲ類】の中の指定科目（各2単位・海外研修4単位あるいは2単位）（指定科目については9ページ参照）

〈3・4学年配当〉

- ◆ 「関連課題研究D」【専攻科目Ⅳ類】（各4単位）の英語で行われる以下の科目
 - 「Global Trends：Implications for Business」ハンリー マシュー M.
 - 「Culture's Influence on Business」吉田友子
 - 「Business Issues in Today's Global Society」シェイ デビット（2018年度は休講）
- ◆ 「外国語演習S」（英語）【専攻科目Ⅳ類】（各2単位）
- ◆ 外国語教育研究センター設置科目（【商学関連科目】として3・4年次に履修）の中の指定科目（各1単位、春・秋セットは2単位）（指定科目については8ページ参照）*2
- ◆ 国際センター設置科目（【商学関連科目】として3・4年次に履修）の中の指定科目（各2単位・海外研修4単位または2単位）（指定科目については9ページ参照）*3
- ◆ 全GPP科目（「商学部3・4年授業時間割」参照）：授業はすべて英語で行われるので、全科目を対象とする。*4

2014年度から、商学部で新たに3・4年生向けに設置された専門的な国際プログラムであるGlobal Passport Program（GPP）と英語の強化プログラムとの連携が始まりました。GPPは、専門性の高いコースワークを提供するために、原則として英語により授業を行う教育プログラムです。

GPPはすべて英語で行われるプログラムです。できるだけ1年次、2年次のうちに必修英語科目のみならず、複数の選択英語科目を履修しておくことが望まれます。※応募条件が変更になる場合がありますので、GPP HP（<http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/sho/gpp.html>）で最新の情報を確認してください。

また2015年度より、全GPP科目（三田設置）が強化プログラム認定対象となりました（国際センターとの併設科目については、2014年度分も認定対象）。GPPを履修しながら、英語の強化プログラムに申請することが可能です。

外国語教育研究センター・国際センターのプログラム認定の対象となる指定科目

外国語教育研究センター設置講座（各1単位。ただし、科目名に(a) (b)と表記されている科目はセットで履修することが義務付けられています。）1・2年生は【総合教育科目Ⅲ類】として、3・4年生は【商学関連科目】として履修*5

日吉設置講座（各1単位、春・秋セットは2単位）

- 「英語最上級アドバンスト英語(a) (b)」
（必修外国語として履修したものは除く）
- 「英語異文化トレーニング(a) (b)」
- 「英語異文化トレーニング（Ⅰ）」
- 「英語異文化トレーニング（Ⅱ）」
- 「英語ドラマ(a) (b)」
- 「英語翻訳(a) (b)」
- 「英語アカデミックライティング（Ⅰ）」
- 「英語アカデミックライティング（Ⅱ）」
- 「英語オーラル・プレゼンテーション（Ⅰ）（初級）」
- 「英語オーラル・プレゼンテーション（Ⅱ）（初級）」
- 「英語留学準備（Ⅰ）」
- 「英語留学準備（Ⅱ）」
- 「英語スピーチとディベート（Ⅰ）」
- 「英語スピーチとディベート（Ⅱ）」

三田設置講座（各1単位、春・秋セットは2単位）

- 「英語最上級アドバンスト英語(a) (b)」
（必修外国語として履修したものは除く）
- 「英語翻訳(a) (b)」
- 「英語経済・金融（Ⅰ）」
- 「英語経済・金融（Ⅱ）」
- 「英語法律・法務（Ⅰ）」
- 「英語法律・法務（Ⅱ）」
- 「英語アカデミック・ライティング（Ⅰ）」
- 「英語アカデミック・ライティング（Ⅱ）」
- 「英語オーラル・プレゼンテーション（Ⅰ）（初級）」
- 「英語オーラル・プレゼンテーション（Ⅱ）（初級）」
- 「英語留学準備（Ⅰ）」
- 「英語留学準備（Ⅱ）」

国際センター設置講座（各2単位、短期海外研修プログラムは各4単位あるいは2単位）

1・2年生は【総合教育科目Ⅲ類】として、3・4年生は【商学関連科目】として履修

国際センター講座：授業はすべて英語で行われるので、全科目を対象とする（ただし、商学部と併設している科目は、商学部設置されている科目を登録すること）。（各2単位）*6

短期海外研修プログラム（夏季講座・春季講座）（各4単位あるいは2単位）*7

ノートルダム大学夏季講座（2単位）

ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座（4単位）

ワシントン大学夏季講座（4単位）

ケンブリッジ大学ダウニング・コレッジ夏季講座（4単位）

オックスフォード大学クライストチャーチ・コレッジ夏季講座（4単位）

オックスフォード大学エクセター・コレッジ夏季講座（2単位）*

（2015年度より中止。ただし2014年度までの取得単位は強化プログラムの認定対象。）

オックスフォード大学リンカーン・コレッジ夏季講座（4単位）

シドニー大学春季講座（2単位）

パリ政治学院春季講座（使用言語は英語）（4単位）

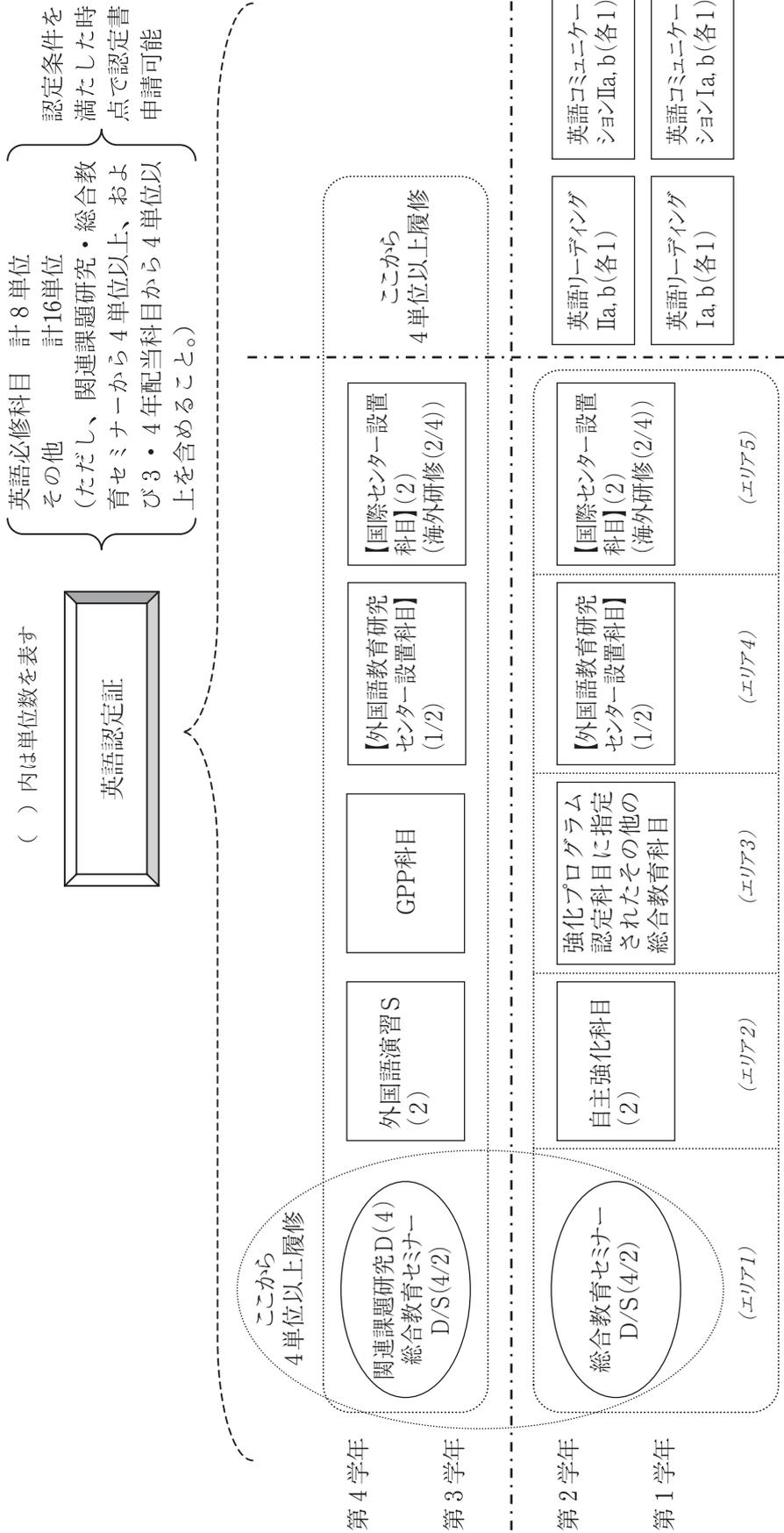
延世大学春季講座（使用言語は英語）（2単位）

（2016年度より中止。ただし2015年度までの取得単位は強化プログラムの認定対象。）

クイーンズランド大学春季講座（2単位）

- *1 このリストに挙げられている科目は、2018年度認定科目です。来年度以降に科目名・担当者等に変更がある場合があります。来年度以降の履修にあたっては、毎年配付される「強化プログラム履修案内」を参照し、当該年度に認定科目として指定されている科目を確認してください。
- *2,3 3・4学年配当科目として認定される各センター科目は、3・4年で履修した科目に限ります。
- *4 GPP科目は年度によって変わることがありますので、「商学部3・4年授業時間割」を参照の上、対応する情報を正しく「強化プログラム（英語）認定申請書」（P.11）の該当欄に全て記入してください。
- *5 外国語教育研究センターの科目は、日吉設置講座・三田設置講座のいずれも学年に関係なく履修可能ですが、履修条件等があるため履修に関する詳細は外国語教育研究センターによく確認してください。
- *6 国際センター講座はすべて三田にて開講され、2年生以上が履修可能です。
- *7 短期海外研修プログラムのうち、夏季講座は同年度秋学期設置科目として、春季講座は次年度春学期設置科目として認定されます。本プログラムの最新の情報、詳細については、国際センターウェブサイトを確認してください。

強化プログラム（英語）履修モデル



- 総合教育セミナー、自主強化科目、その他の総合教育科目、【外国語教育研究センター設置科目】、【国際センター設置科目】（海外研修を含む）、関連課題研究Dは、それぞれ強化プログラム認定科目として指定されているもの限り、認定の対象となります。
- 3・4年配当科目として認定される各センター科目は、3・4年で履修した科目に限ります。

強化プログラム（英語）認定申請書 2018年度

提出期限：2018年10月31日（水）

氏名： _____ 学籍番号： _____
 学年： _____ クラス： _____ PCメールアドレス： _____
 電話番号： _____ 携帯メールアドレス： _____

私は、下表の科目の単位を取得あるいは取得見込みです。2018年度春学期の成績表コピーを添付の上、英語強化プログラム認定を申請いたします。

「成績証明書」ではなく「成績表」のコピーを提出すること（Webの閲覧画面の印刷は不可）!!!
 成績表コピー上の当該科目には、ラインマーカー等で明確に印をつけること!!!
 （今年度秋学期の登録科目は、学事Webシステムの履修申告状況確認画面のコピーに当該科目をハイライトして追加提出）

下表のうち単位取得あるいは単位取得見込みの科目に、① ラインマーカー等で明確に印をつけ、② 履修年度および担当者名を記入し、③ 表に挙げられていない科目を履修した場合は、表の空欄に必要事項を漏れなく記入し、④ 単位数総計を間違いなく計算して記入した上で、提出すること。

履修年度	科 目 名	担当者名	単位数
必修英語科目			
	英語リーディングⅠa, b		2
	英語コミュニケーションⅠa, b		2
	英語リーディングⅡa, b		2
	英語コミュニケーションⅡa, b		2
自主強化科目			
	英語ディスカッション		2
	英語ディベート		2
	英語アカデミックライティング		2
	英語プレゼンテーション		2
	英語リスニングセミナー		2
	英語リーディングセミナー		2
総合教育セミナー・関連課題研究・外国語演習・その他の総合教育科目			
	総合教育セミナーS・D（左のS・Dのいずれか、右の単位数の2・4のいずれかに○）		2・4
	総合教育セミナーS・D（同上）		2・4
	関連課題研究D		4
	外国語演習S（春学期）		2
	外国語演習S（秋学期）		2
外国語教育研究センター科目・国際センター科目（科目が設置されたセンターに○をして科目名を記入。）			
	外・国		
GPP科目（全ての履修科目名を記入。）			
	GPP科目		
単 位 数 総 計			

強化プログラム（ドイツ語）

強化プログラム（ドイツ語）では、ドイツ語の運用能力を確実なものとし、同時に広くドイツおよびドイツ語圏の社会、文化を学ぶことを目的としています。ドイツ語という言葉語をマスターすることによって、英語を通して見た世界とは違った世界を認識するようになるでしょうし、文化の多様性ということにも目を開かれることでしょう。ドイツ語またはドイツ、オーストリア、スイスなどドイツ語圏の文化・歴史・社会について深く知りたいという人の参加を希望します。

認定条件

1. 必修ドイツ語8単位に加えて以下の認定科目の中から16単位以上を取得すること。
ただし次の条件をすべて満たしていることが必要です。
(ア) 「ドイツ語強化科目」から6単位以上取得すること。
(イ) 「ドイツ、ドイツ語圏に関する演習・講義科目」から「総合教育セミナー」を含む8単位以上を取得すること。
(ウ) 3・4年次配当のドイツ、ドイツ語圏に関する科目を4単位以上取得すること。
2. このプログラムでは積極的な学習態度を重視しますので、評語Cの科目は、認定に必要な24単位中4単位までに限り認めます。

認定科目

- 「ドイツ語強化科目」（この中から6単位以上）
 - ◇【総合教育科目Ⅳ類】のうち以下の自主強化科目
 - 「ドイツ語インテンシブⅢ」（1年配当、通年2単位）
 - 「ドイツ語インテンシブⅥ」（2年配当、通年2単位）
 - ◇必修外国語科目以外に履修する「ドイツ語Ⅲa、Ⅲb」（2年配当、通年2単位）
 - ◇【専攻科目Ⅳ類】「外国語演習D」（ドイツ語）（3・4年配当、通年4単位）
 - *外国語教育研究センター設置ドイツ語科目（1～4年配当）
- 「ドイツ、ドイツ語圏に関する演習、講義科目」（以下の科目から「総合教育セミナー」を含む8単位以上）
 - ◇【総合教育科目Ⅱ類】のうち以下の科目
 - 「総合教育セミナーD」（担当者：フォーグル, ヴァルター）（1・2年配当、通年4単位）
 - 「地域文化論Ⅰ・Ⅱ」（ドイツ、ドイツ語圏）（1・2年配当、計4単位）
 - 「地域文化論Ⅲ・Ⅳ」（ドイツ、ドイツ語圏）（1・2年配当、計4単位）

◇【専攻科目Ⅳ類】

「関連課題研究D」(ドイツ語)(3・4年配当、通年4単位)

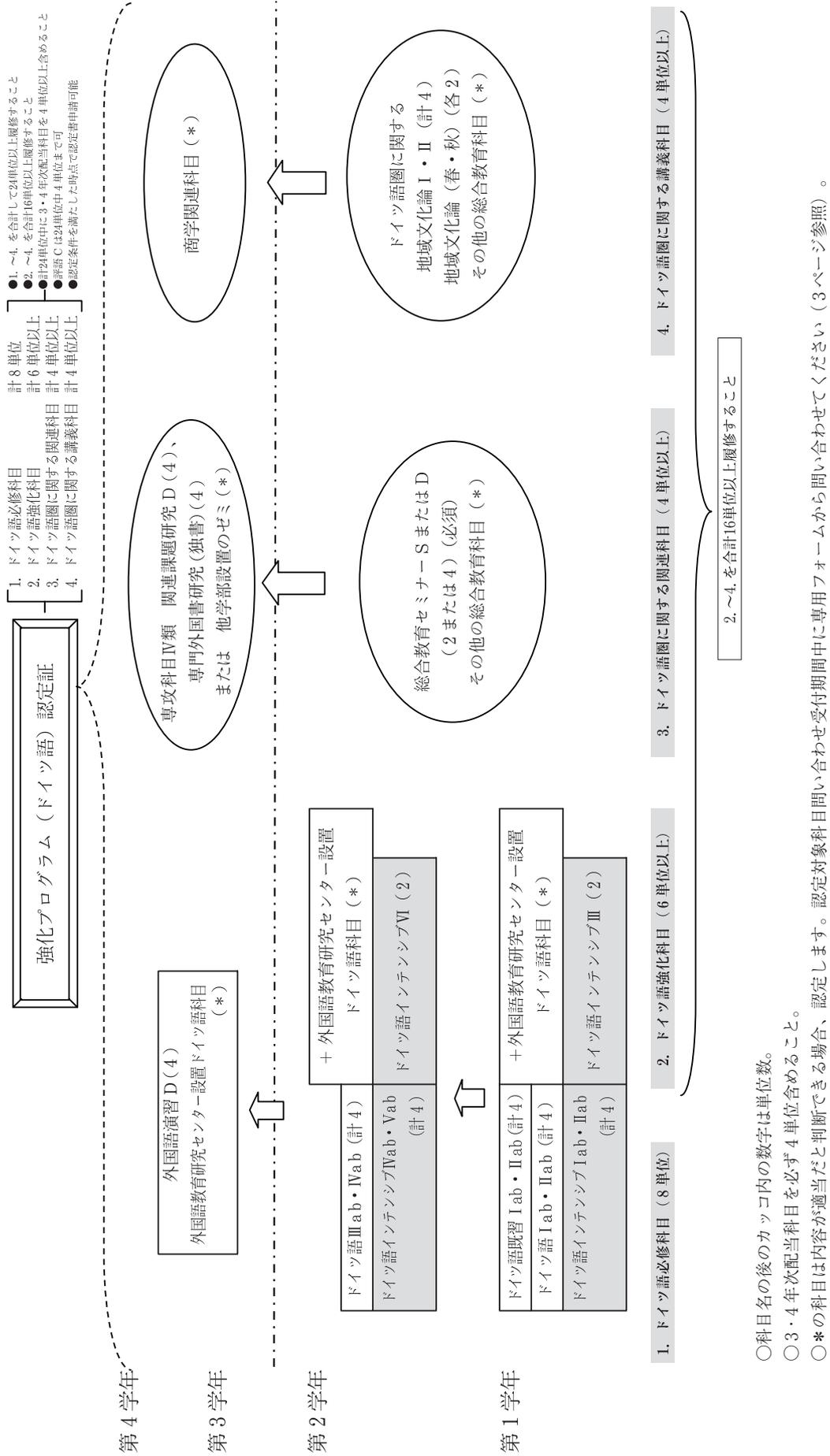
「専門外国書研究」(独書)(3・4年配当、通年4単位)

*その他の【総合教育科目】(1・2年配当)【商学関連科目】(3・4年配当)、
他学部設置科目(3・4年配当)のうちドイツ、ドイツ語圏に関する科目。

○このリストにある科目には2019年度以降、科目名、担当者、設置コマ数など変更箇所があるかもしれません。各年度の「強化プログラム履修案内」を参照のうえ確認してください。

○*印の科目は内容が適当と判断できる場合、認定します。また他学部設置科目、外国語教育研究センター設置科目なども認められる場合があります。認定対象科目問い合わせ受付期間中に専用フォームから問い合わせてください(3ページ参照)。

強化プログラム（ドイツ語）履修モデル



強化プログラム（フランス語）

強化プログラム（フランス語）では、言語としてのフランス語運用能力を確実に身につけると同時に、その言語が使われているフランス語圏の国や地域についての知識を学びます。このプログラムは、商学部のフランス語履修者が、英語以外の言語で発信された情報も受信可能な、もうひとつのアンテナを自分のものとして広い視野と複数の視点を持つこと、そして、フランス語圏の人々とのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。認定条件を満たせば第3学年時に認定申請することもできます。

認定条件

1. 必修フランス語（計8単位）に加えて、以下の認定科目の中から16単位以上を取得すること。ただし、次の履修条件のすべてを満たしていることが必要です。

履修条件：

- (ア) 「フランス語強化科目」から6単位以上取得すること。
- (イ) 「フランス、フランス語圏に関する演習・講義科目」から、「総合教育セミナーD」または「関連課題研究（4単位）」を含む8単位以上を取得すること。
- (ウ) 3・4年配当のフランス、フランス語圏関連科目を4単位以上取得すること。

2. 認定取得のために申請できるのは、評語Cの履修科目については、認定に必要な24単位中4単位を上限とする。

認定科目

- 「フランス語強化科目」（以下の科目から計6単位以上）
 - ◇【総合教育科目Ⅳ類】のうち、以下の自主強化科目：
 - 「フランス語インテンシブⅢ」（1年配当、通年2単位）
 - 「フランス語インテンシブⅥ」（2年配当、通年2単位）
 - ◇必修外国語科目以外に履修する「フランス語Ⅳa、Ⅳb」（2年配当、通年2単位）
 - ◇【専攻科目Ⅳ類】「外国語演習S」（フランス語）（3・4年配当、半期2単位）
- *外国語教育研究センター設置フランス語科目（1～4年配当）
- 「フランス、フランス語圏に関する演習・講義科目」（以下の科目から「総合教育セミナーD」または「関連課題研究」4単位以上を含む計8単位以上）
 - ◇【総合教育科目Ⅱ類】のうち以下の科目
 - 「総合教育セミナーD」（担当者：原 大地・御園敬介・渡名喜庸哲・川村文重）（1・2年配当、通年4単位）
 - 「フランス事情Ⅰ・Ⅱ」（フランス、フランス語圏文化概論）（1・2年配当、計4単位）
 - 「地域文化論Ⅰ・Ⅱ」（フランス、フランス語圏）（1・2年配当、計4単位）
 - 「地域文化論Ⅲ・Ⅳ」（フランス、フランス語圏）（1・2年配当、計4単位）

◇【専攻科目Ⅳ類】

「関連課題研究S」（フランス語）（3・4年配当、半期2単位）

「専門外国書研究」（仏書）（3・4年配当、通年4単位）

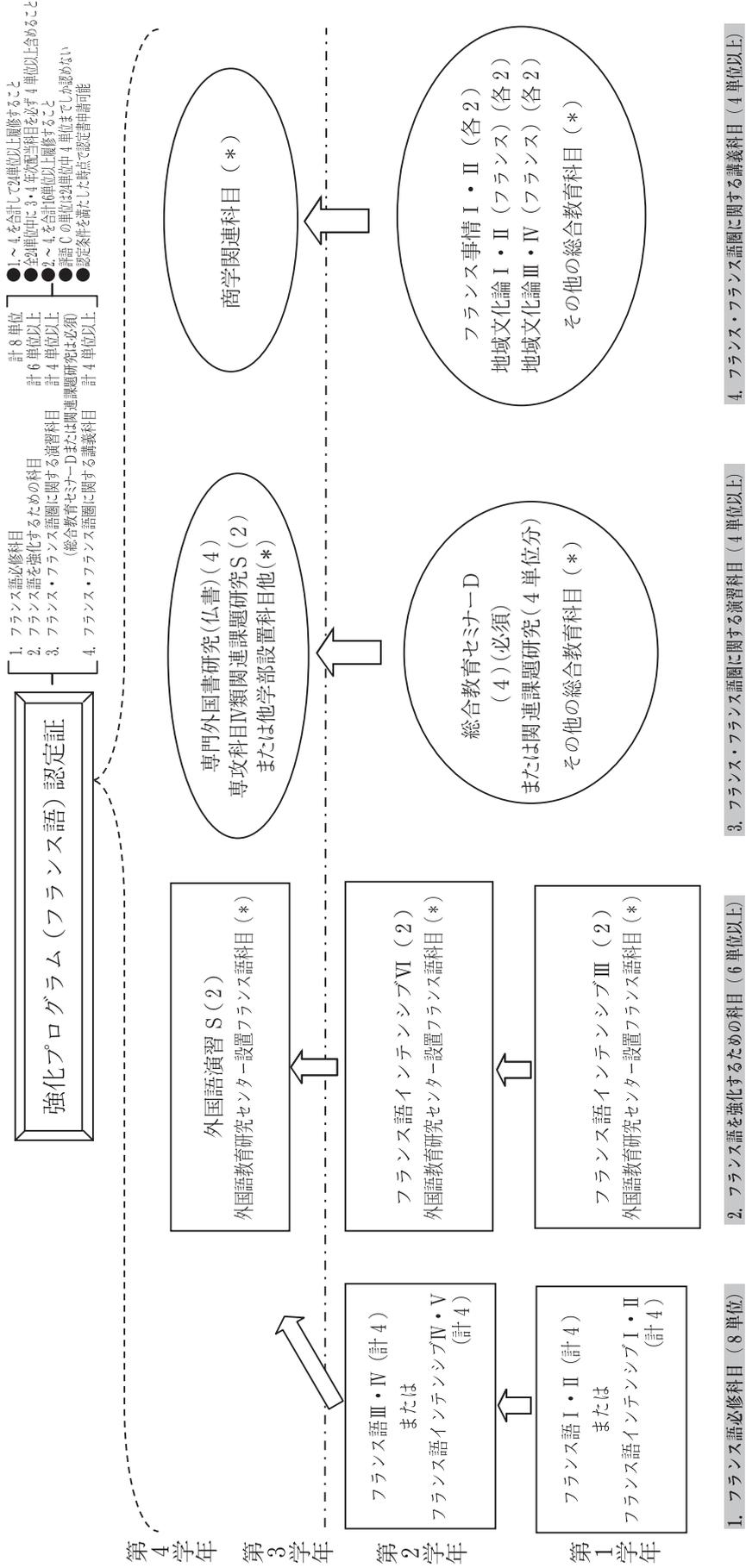
*「総合教育セミナーD」を履修していない場合は、「関連課題研究S」を通年で履修してください。

*その他の【総合教育科目】（1・2年配当）、【商学関連科目】（3・4年配当）、他学部設置科目（3・4年配当）のうち、フランス、フランス語圏に関する科目

○このリストにある科目には、2019年度以降、科目名、担当者、設置コマ数などに変更箇所があるかもしれません。各年度の「強化プログラム履修案内」を参照のうえ確認してください。

○*印の科目、他学部設置科目、外国語教育研究センター設置科目については、認定科目としての承認を受けるためには、認定対象科目問い合わせ受付期間中に専用フォームから問い合わせてください。

強化プログラム（フランス語）履修モデル



- 科目名の後のカッコ内の数字は単位数。
- 3・4年次配当科目を必ず4単位含めること。
- (*)印の科目が強化プログラム対象科目として認定されるかどうかは、認定対象科目問い合わせ受付期間中に専用フォームから問合せること（3ページ参照）。
- その他の疑問点については、学生部学事担当を通して随時フランス語部会に問合せること。

強化プログラム（フランス語）認定申請書 2018年度

提出期限：2018年10月31日（水）

氏名： _____ 学籍番号： _____
 学年： _____ クラス： _____ PCメールアドレス： _____
 電話番号： _____ 携帯メールアドレス： _____

私は、下表の科目の単位を取得あるいは取得見込みです。2018年度春学期の成績表コピーを添付の上、強化プログラム認定を申請いたします。

「成績証明書」ではなく「成績表」のコピーを提出すること（Webの閲覧画面の印刷は不可）!!!
 成績表コピー上の当該科目には、ラインマーカー等で明確に印をつけること!!!
 （今年度秋学期の登録科目は、学事Webシステムの履修申告状況確認画面のコピーに当該科目をハイライトして追加提出）

下表のうち単位取得あるいは単位取得見込みの科目に、① ラインマーカー等で明確に印をつけ、② 履修年度および担当者名を記入し、③ 表に挙げられていない科目を履修した場合は、表の空欄に必要事項を漏れなく記入し、④ 単位数総計を間違いなく計算して記入した上で、提出すること。

履修年度	科 目 名	担当者名	単位数
〈必修フランス語科目〉			
	フランス語Ⅰa, b		2
	フランス語Ⅱa, b		2
	フランス語Ⅲa, b		2
	フランス語Ⅳa, b		2
	フランス語インテンシブⅠa, b		2
	フランス語インテンシブⅡa, b		2
	フランス語インテンシブⅣa, b		2
	フランス語インテンシブⅤa, b		2
〈フランス語を強化するための科目〉			
	フランス語インテンシブⅢ		2
	フランス語インテンシブⅥ		2
	外国語演習S（フランス語講読）（春学期）		2
	外国語演習S（フランス語講読）（秋学期）		2
	外国語演習S（フランス語表現法）（春学期）		2
	外国語演習S（フランス語表現法）（秋学期）		2
〈フランス、フランス語圏に関する演習科目〉			
	総合教育セミナーD		4
	関連課題研究S		2・4
	専門外国語研究（仏書）		4
〈フランス、フランス語圏に関する講義科目〉			
	フランス事情Ⅰ		2
	フランス事情Ⅱ		2
	地域文化論Ⅰ（フランス、フランス語圏）		2
	地域文化論Ⅱ（フランス、フランス語圏）		2
	地域文化論Ⅲ（フランス、フランス語圏）		2
	地域文化論Ⅳ（フランス、フランス語圏）		2
〈上に挙げられていない科目については、以下に必要事項を漏れなく記入すること〉			
単位数総計			

強化プログラム（中国語）

強化プログラム（中国語）では、中国語運用能力と中国についての知識を習得することによって、自分なりの目的と関心をもって中国に切り込んでいくための能力を養います。商学部在学中に得た知識を武器にして、将来、中国と深く関わっていくことのできる人材を養成することが目的です。中国と中国語に興味を持っている人は、ぜひこのプログラムを履修してください。

認定の条件

1. 必修中国語8単位（注1）に加えて、下に示す認定科目の中から16単位以上を取得すること。ただし、認定科目の履修の仕方には、次のような条件があります。
 - (ア) 「中国語運用能力の習得のための科目」から8単位以上取得すること。ただし、同科目の中から第3・4学年配当の科目を1コマは履修しなければならない。
 - (イ) 「中国についての知識習得・テーマ研究のための科目」から8単位以上取得すること。
2. 強化プログラムでは、みなさんの意欲的な学習態度が重要です。そのため、認定に必要な24単位の中に評語Cの単位は、最大4単位までしか認めません。
3. 強化プログラムを選択したいと事前に申告する必要はありません。また、認定証が発行される学年にも制限はありません。自由科目として履修したものも認めます。商学部の学生で、履修した科目・単位数とその成績が上記の認定条件を満たした人であればだれでもその時点で、「認定証」の発行を申請する資格が発生します。所定の方法で学生部商学部係窓口にて手続きしてください。

(注1)

必修中国語科目は以下の科目を指します。

通常クラス科目

第1学年次

中国語Ⅰa、Ⅰb、中国語Ⅱa、Ⅱb

第2学年次

中国語Ⅲa、Ⅲb、中国語Ⅳa、Ⅳb

中国語インテンシブクラス科目

第1学年次

中国語インテンシブⅠa、Ⅰb、中国語インテンシブⅡa、Ⅱb

第2学年次

中国語インテンシブⅣa、Ⅳb、中国語インテンシブⅤa、Ⅴb

認定科目

中国語運用能力習得のための科目

第1・2学年配当科目

中国語インテンシブⅢ

中国語インテンシブⅥ

*日吉外国語教育研究センター設置中国語科目
(総合教育科目Ⅲ類他、2単位)

第3・4学年配当科目

外国語演習D (中国語講読)(専攻科目Ⅳ類、4単位)

外国語演習D (中国語作文)(同上、4単位)

外国語演習D (中国語ヒアリング)(同上、4単位)

外国語演習D (ビジネス中国語会話)(同上、4単位)

*三田外国語教育研究センター設置中国語科目
(総合教育科目Ⅲ類、商学関連科目他、2単位)

これらの中から、
計8単位以上

ただし、第3・
4学年配当科目
の中から1科目
は履修しなけれ
ばならない

中国についての知識習得・テーマ研究のための科目

第1・2学年配当科目

総合教育セミナーD (担当者 酒井)
(総合教育科目Ⅱ類、4単位)

総合教育セミナーD (担当者 櫻庭) (同上、4単位)

総合教育セミナーD (担当者 高橋) (同上、4単位)

総合教育セミナーD (担当者 種村) (同上、4単位)

総合教育セミナーD (担当者 段) (同上、4単位)

総合教育セミナーD (担当者 孟) (同上、4単位)

中国事情 (半期、2単位)

地域研究—中国事情Ⅰ (同上、2単位)

地域研究—中国事情Ⅱ (同上、2単位)

地域研究—中国事情Ⅲ (同上、2単位)

地域研究—中国事情Ⅳ (同上、2単位)

*この他、総合教育科目のうち、中国に関する科目

+

これらの中から、
計8単位以上

第3・4学年配当科目

関連課題研究D (中国語 酒井) (専攻科目Ⅳ類、4単位)

世界経済各論 (中国経済論 孟) (専攻科目Ⅲ類、2単位)

地域研究—中国事情Ⅴ (総合教育科目Ⅱ類、2単位)

地域研究—中国事情Ⅵ (同上、2単位)

*他学部設置の科目のうち、中国に関する科目

||

計16単位以上

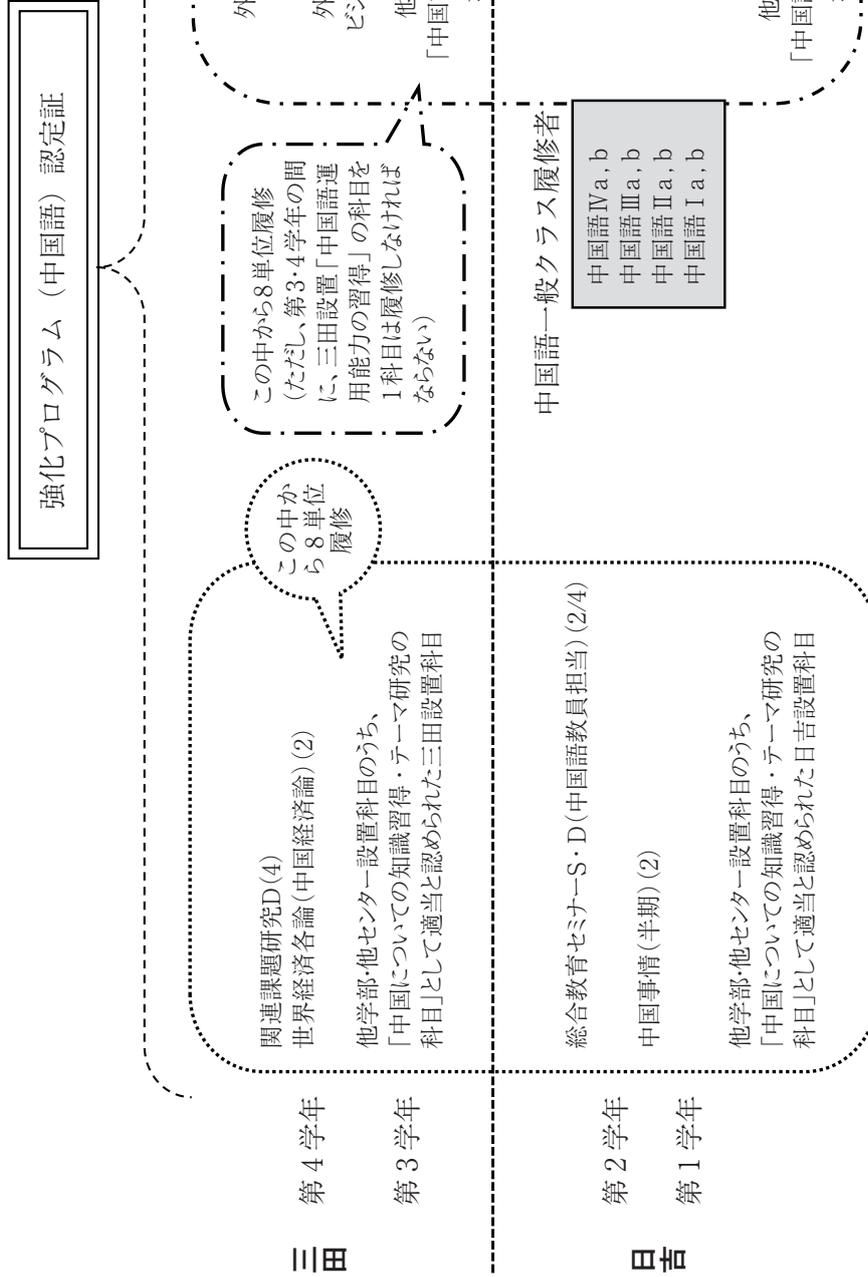
○このリストに挙げられている科目は、科目名・担当者・設置コマ数などに変更がある場合があります。

2019年度以降の認定科目については、その年の「強化プログラム履修案内」で確認してください。

○*印の科目は内容が適当と判断できる場合、認定に必要な単位に含めることを認めます。また、ここに掲げた科目以外にも、他学部・諸センター設置の中国語科目や中国に関する科目のうち、認定科目として認められるものがあります。認定対象科目問い合わせ受付期間中に専用フォームから問い合わせてください(3ページ参照)。

強化プログラム（中国語）履修モデル

() 内は単位数を表す



中国についての知識習得・テーマ研究

中国語運用能力の習得

強化プログラム（スペイン語）

強化プログラム（スペイン語）は、スペイン語能力を着実に培うと同時に、スペイン語圏についての知識を身につけることを目的としたものです。スペイン、ラテンアメリカ諸国、アメリカ合衆国など世界の20を超える国と地域で話されているスペイン語は約4億人もの人々の母語であり、スペイン語圏の歴史・文化・地域事情は非常に豊かで多様です。スペイン語とスペイン語圏の知識を共に学ぶことによって、ぜひ語学力を生かす場を広げて下さい。

認定条件を満たせば第3学年時に認定申請をすることもできます。

認定の条件

1. 必修スペイン語8単位に加えて、後に示す認定科目の中から16単位以上、計24単位を取得すること。ただし、この16単位の履修の仕方には次のような条件があります。
 - (ア) 《スペイン語を強化するための科目》から6単位以上取得すること。
 - (イ) 《スペイン・ラテンアメリカに関する演習科目》から、「総合教育セミナーS・D」または「関連課題研究D」（スペイン語）を含む4単位以上を取得すること。
 - (ウ) 《スペイン・ラテンアメリカに関する講義科目》から4単位以上取得すること。
 - (エ) 3・4学年次配当科目を4単位以上含むこと。
2. このプログラムでは、皆さんの意欲的な学習態度が重要となります。そのため、評語Cの単位は、認定に必要な24単位中4単位を上限とします。

認定科目

《スペイン語を強化するための科目》（この中から6単位以上）

◆【総合教育科目Ⅳ類】 自主強化科目の以下の科目

「スペイン語インテンシブⅢ」（1年配当）（通年2単位）

「スペイン語インテンシブⅥ」（2年配当）（通年2単位）

◆【専攻科目Ⅳ類】の以下の科目

「外国語演習D」（スペイン語会話）（3・4年配当）（通年4単位）

「外国語演習D」（スペイン語講読）（3・4年配当）（通年4単位）

*外国語教育研究センター設置スペイン語科目（1～4年配当）

《スペイン・ラテンアメリカに関する演習科目》（この中から「総合教育セミナーS・D」または「関連課題研究D」（スペイン語）を含む4単位以上）

◆【総合教育科目Ⅱ類】の以下の科目

「総合教育セミナーS」（担当：横山和加子、安井 伸）（1・2年配当）（春または秋2単位）

「総合教育セミナーD」（担当：瀧本佳容子、松田健児、川上 英）（1・2年配当）（通年4単位）

◆【専門科目Ⅳ類】

「関連課題研究D」（スペイン語）（3・4年配当）（通年4単位）

*その他の【総合教育科目】や他学部設置の演習科目、ゼミなど

《スペイン・ラテンアメリカに関する講義科目》(この中から4単位以上)

◆【総合教育科目Ⅱ類・Ⅲ類】の以下の科目

「文学Ⅰ」および「文学Ⅱ」(担当：瀧本佳容子)(各2単位)

「美術Ⅰ」(担当：松田健児)(2単位)

「ラテンアメリカ研究Ⅰ」および「ラテンアメリカ研究Ⅱ」(各2単位)

「地域研究－スペイン事情Ⅰ」および「地域研究－スペイン事情Ⅱ」(各2単位)

「地域文化論Ⅰ～Ⅳ」のうちスペイン語圏に関するもの(各2単位)

*その他の【総合教育科目】、【商学関連科目】(3・4年配当)、他学部設置の講義科目など

○このリストに挙げられている科目には、2019年度以降、科目名・担当者・設置コマ数などに変更があるかもしれません。各年度の強化プログラム履修案内で確認してください。

○*印の科目は、内容が適当だと判断できる場合、認定に必要な単位に含めることを認めます。また、ここに挙げた科目以外にも、他学部・諸センターが設置する、スペイン語とスペイン・ラテンアメリカに関する科目も認定科目として認められることがあります。認定対象科目問い合わせ受付期間中に専用フォームから問い合わせてください(3ページ参照)。

強化プログラム(スペイン語)履修モデル

強化プログラム(スペイン語)認定証取得

計24単位以上			
学年			
4		外国語演習D(スペイン語講読)(4単位) 外国語演習D(スペイン語会話)(4単位) * 外国語教育研究センター設置スペイン語科目	* 25頁の【三田キャンパス 他学部設置の講義科目】 * 商学関連科目
3			
2	スペイン語Ⅲa, b・Ⅳa, b(計4単位) または スペイン語インテンシブⅣa, b・Ⅴa, b(計4単位)	スペイン語インテンシブⅥ(2単位) * 外国語教育研究センター設置スペイン語科目	25頁の【総合教育科目Ⅱ類・Ⅲ類】 * その他の総合教育科目
1	スペイン語Ⅰa, b・Ⅱa, b(計4単位) または スペイン語インテンシブⅠa, b・Ⅱa, b(計4単位)	スペイン語インテンシブⅢ(2単位) * 外国語教育研究センター設置スペイン語科目	

43
単・4
位以
上！

1. スペイン語必修科目
(8単位)

2. スペイン語を強化するための科目
(6単位以上)

3. スペイン・ラテンアメリカに関する演習科目
(4単位以上)

4. スペイン・ラテンアメリカに関する講義科目
(4単位以上)

2. ~ 4. を合計16単位以上

3. の4単位には、24頁の総合教育セミナー-S・Dまたは関連課題研究D(スペイン語)を必ず含めること

注意！

- ▶ * のついでに科目を認定するかどうかは、スペイン語部会の判断によるので、認定対象科目問い合わせ期間中に専用フォームから問い合わせること(3ページ参照)。
- ▶ その他の疑問点についても、学生部を通じて随時問い合わせること。
- ▶ 評語Cの単位は24単位中4単位が上限。
- ▶ 認定条件を満たせば第3学年時で認定証申請可能。

強化プログラム（スペイン語）認定申請書 2018年度

提出期限：2018年10月31日（水）

氏名： _____ 学籍番号： _____
 学年： _____ クラス： _____ PCメールアドレス： _____
 電話番号： _____ 携帯メールアドレス： _____

私は、下表の科目の単位を取得あるいは取得見込みです。2018年度春学期の成績表コピーを添付の上、強化プログラム認定を申請いたします。

「成績証明書」ではなく「成績表」のコピーを提出のこと（Webの閲覧画面の印刷は不可）!!!
 成績表コピー上の当該科目には、ラインマーカー等で明確に印をつけること!!!
 （今年度秋学期の登録科目は、学事Webシステムの履修申告状況確認画面のコピーに当該科目をハイライトして追加提出）

下表のうち単位取得あるいは単位取得見込みの科目に、① ラインマーカー等で明確に印をつけ、② 履修年度および担当者名を記入し、③ 表に挙げられていない科目を履修した場合は、表の空欄に必要事項を漏れなく記入し、④ 単位数総計を間違いなく計算して記入したうえで、提出してください。

履修年度	科 目 名	担当者名	単位数
〈必修スペイン語科目〉			
	スペイン語Ⅰa, b		2
	スペイン語Ⅱa, b		2
	スペイン語Ⅲa, b		2
	スペイン語Ⅳa, b		2
	スペイン語インテンシブⅠa, b		2
	スペイン語インテンシブⅡa, b		2
	スペイン語インテンシブⅣa, b		2
	スペイン語インテンシブⅤa, b		2
〈スペイン語を強化するための科目〉			
	スペイン語インテンシブⅢ		2
	スペイン語インテンシブⅥ		2
	外国語演習D（スペイン語講読）		4
	外国語演習D（スペイン語会話）		4
〈スペイン・ラテンアメリカに関する演習科目〉			
	総合教育セミナーS・D（左のS・Dいずれか、右の単位数の2・4いずれかに○をつけよ）		2・4
	関連課題研究D（スペイン語）		4
〈スペイン・ラテンアメリカに関する講義科目〉			
	ラテンアメリカ研究Ⅰ		2
	ラテンアメリカ研究Ⅱ		2
	地域文化論Ⅰ		2
	地域文化論Ⅱ		2
	地域文化論Ⅲ		2
	地域文化論Ⅳ		2
	地域研究－スペイン事情Ⅰ		2
	地域研究－スペイン事情Ⅱ		2
〈上に挙げられていない科目については、以下に必要事項を漏れなく記入すること。科目名が同じで担当者が違う場合もここに記入すること。〉			
単位数総計			

強化プログラム（数学）

強化プログラム（数学）では、数学の基礎学力や商学部専門分野の学習に役立つ数学の知識、学力を養います。学んでいく過程で、数学的な考え方に親しむことも目標の一つです。

数学的な考え方になじむことにより、将来数学を用いて様々な局面に当たることが出来るようになることを期待しています。数学的な考え方に親しみたい人、将来数学を一つの有用かつ強力なツールとしていきたいと思う人には、このプログラムの履修を推奨します。

認定の条件

1. 必修科目4単位（微積分I・II、第1学年配当）に加え、後に示す認定科目の中から16単位以上を取得すること。ただし、次の履修条件を全て満たしていることが必要です。
 - ① 強化プログラム（数学）修了のための必須科目（線形代数、中級線形代数、中級微積分）の単位は**必ず取得**すること。
 - ② 第1・2学年配当の選択科目（日吉開講）から6単位以上、第3・4学年配当の選択科目（三田開講）から4単位以上を取得すること。
 - ③ ※印を付けた科目で認定対象となるのは、商学部専任数学教員が担当する授業に限ります。ただし、内容によっては認定対象としないこともありますので、授業初回のガイダンス時に確認してください。また、認定対象となる授業が毎年開講されるとは限りません。
2. 強化プログラムでは積極的な学習態度を重視しますので、評語Cの科目は、認定に必要な20単位中1科目に限り認めます。（2015年度入学者より適用）

認定科目

- **強化プログラム（数学）修了のための必須科目（6単位）**
 - 線形代数（1年配当、総合教育科目IV類、2単位）
 - 中級線形代数（2年配当、総合教育科目IV類、2単位）
 - 中級微積分（2年配当、総合教育科目IV類、2単位）
- **選択科目（日吉開講）（6単位以上）**
 - 確率論基礎（1年配当、総合教育科目IV類、2単位）
 - ゲーム理論基礎（1年配当、総合教育科目IV類、2単位）
 - 線形代数演習（2年配当、総合教育科目IV類、2単位）
 - 微積分演習（2年配当、総合教育科目IV類、2単位）
 - ※総合教育セミナーS（1・2年配当、総合教育科目I類、2単位）
 - ※総合教育セミナーD（1・2年配当、総合教育科目I類、4単位）
- **選択科目（三田開講）（4単位以上）**
 - 経済数学I（3・4年配当、商学関連科目、2単位）
 - 経済数学II（3・4年配当、商学関連科目、2単位）
 - ゲーム理論（3・4年配当、商学関連科目、2単位）
 - ※関連課題研究S（3・4年配当、専攻科目IV類、2単位）
 - ※関連課題研究D（3・4年配当、専攻科目IV類、4単位）

強化プログラム（数学）履修モデル



学年	計20単位以上			
3・4				経済数学I (2単位) 経済数学II (2単位) ゲーム理論 (2単位) 関連課題研究S (2単位) 関連課題研究D (4単位)
2		中級線形代数 (2単位) 中級微積分 (2単位)	総合教育セミナーS (2単位)	線形代数演習 (2単位) 微積分演習 (2単位)
1	微積分I・II (計4単位)	線形代数 (2単位)	総合教育セミナーD (4単位)	確率論基礎 (2単位) ゲーム理論基礎 (2単位)
	必修科目 (4単位)	強化プログラム 必須科目 (6単位)	選択科目（日吉） (6単位以上)	選択科目（三田） (4単位以上)

強化プログラム（数学）認定申請書 2018年度

提出期限：2018年10月31日（水）

氏名： _____ 学籍番号： _____
 学年： _____ クラス： _____ PCメールアドレス： _____
 電話番号： _____ 携帯メールアドレス： _____

私は、下表の科目の単位を取得あるいは取得見込みです。2018年度春学期の成績表コピーを添付の上、強化プログラム認定を申請いたします。

「成績証明書」ではなく「成績表」のコピーを提出すること（Webの閲覧画面の印刷は不可）!!!
 成績表コピー上の当該科目には、ラインマーカー等で明確に印をつけること!!!
 (今年度秋学期の登録科目は、学事Webシステムの履修申告状況確認画面のコピーに当該科目をハイライトして追加提出)

下表のうち単位取得あるいは単位取得見込みの科目に、① ラインマーカー等で明確に印をつけ、② 履修年度および担当者名を記入し、③ 単位数総計を間違いなく計算して記入した上で、提出すること。

履修年度	科 目 名	担当者名	単位数
〈必修科目〉			
	微積分 I		2
	微積分 II		2
〈数学強化プログラム必須科目〉			
	線形代数		2
	中級線形代数		2
	中級微積分		2
〈選択科目〉			
	確率論基礎		2
	ゲーム理論基礎		2
	線形代数演習		2
	微積分演習		2
	総合教育セミナー S・D (S・Dのいずれか、右の単位数の2・4のいずれかに○をつけよ)		2・4
	総合教育セミナー S・D (同上)		2・4
	経済数学 I		2
	経済数学 II		2
	ゲーム理論		2
	関連課題研究 S		2
	関連課題研究 D		4
単 位 数 総 計			

～強化プログラム履修生の声 & 認定証サンプル～

【英語強化プログラム 履修生の声】

4年間を通じて継続的な語学力向上を目指す

2012年度卒業 旦 えりか



私は英語の強化プログラムに挑戦したので、一、二年生の必修英語に加えて、三田では国際センターや商学部のセミナー授業等も履修しました。そのおかげで、意欲のある友人に出会うことができ、また就職活動でもアピールすることができました。

私の場合、仕事で外国株式を扱っているのも、卒業後も非常に役立っています。強化プログラムの修了を目標にしたことで、四年間を通じて英語に触れる機会を得て、語学力を飛躍的に伸ばすことができました。語学の習得のためには三、四年次も続けて学習することが大切です。そのためにプログラムの修了達成を目標にしてはいかがですか。ぜひこのプログラムに挑戦して、さらなる飛躍につなげて下さい。

目的を設定し更なる飛躍へ

2012年度修了 井上 太輝



私は興味があったマーケティングの他に、貴重な四年間を通して何か学びを深めたいという思いがありました。そんな時に見つけたのが強化プログラムでした。何となく履修、盲目的に学生生活を過ごすのがあまり好きではない性分の私にはぴったりのものでした。四年間を通して語学力向上は勿論のこと、留学経験、向上心の高い意欲的な学生との出会い、プレゼン能力等の実務的な学びもありました。どうせ同じ四年間を過ごすならば何か目的を持って有意義な四年間を試してみたいと思いませんか。

【ドイツ語強化プログラム 履修生の声】

第二外国語を学ぶ指針に

2015年度修了 三瀬あや香



私が強化プログラムに挑戦した理由は二つあります。一つは在学中に第二外国語としてドイツ語を習得したいと考えていたこと、もう一つは商学部には必修科目が少なく裁量が大きいので、何か一つ軸をもって履修を決めたいと考えていたことです。強化プログラムに参加し、文化、文献精読、会話表現、映画鑑賞など様々なアプローチからドイツ語を学んだことで、語学の必修授業だけでは身につかない様々な力を習得することができました。

私は大学三年時に当プログラムを修了し、現在も勉強を続けています。皆さんも是非、強化プログラムを通じて第二外国語を意欲的に学んでほしいと思います。大学在学中に第二外国語を習得するという経験は、英語や他の言語を学ぶときにもきっと役に立つでしょう。

【中国語強化プログラム 履修生の声】

強化プログラムを取得してみよう

2013年度修了 中島 啓



私は入学時に第2外国語で中国語を選択した際に、語学だけでなく、広く中国に関する知識を習得したいと考えました。その際に、中国に関する学習の一つの指針として役立ったのがこの中国語強化プログラムです。日吉時代は勿論、専門課程に進んでからも、強化プログラムの認定を一つのモチベーションとすることで、ゼミの学習とも両立させることが出来ました。現在でも、卒論のテーマとして中国に関する学習を続けており、また今後はこの経験を活かして中国と関わっていくことが出来るだろうと考えています。

【スペイン語強化プログラム 履修生の声】

— 自ら学ぶ —

2014年度（3年修了時）修了 染矢 智美



必修の授業だけでは物足りないと感じ、二年次から強化プログラムに挑戦しました。授業では、教科書には載っていないような日常で使えるフレーズも沢山教えて頂きました。それらは、三年次に語学留学で行ったスペインで十分に活かすことが出来たと思います。また強化プログラムには、スペインだけでなくラテンアメリカ諸国について学ぶ機会も沢山あります。そこで得た知識をもって、次はメキシコなどにも行ってみたいです。強化プログラムは、ただ授業を受けるのではなく、自ら学んでいこう、という気持ちにさせてくれます。私自身、何となく始めたスペイン語ですが、今ではもっと喋れる様になりたい、という気持ちでいっぱいです。皆さんもぜひ挑戦してみてください。

— スペイン語から学ぶ世界 —

2014年度（4年修了時）修了 仁科 祥平



私は自分の中での専門分野を作りたいと考え、2年生からスペイン語のインテンシブクラスに編入し、強化プログラム取得を目指しました。スペイン語の授業では、語学だけではなく、スペイン語圏の文化までも学ぶことができます。授業の間に入る先生の小話は非常に興味深く、その国に対する理解を深めてくれました。何より、スペイン語やスペイン語圏の文化を学ぶことをきっかけに、世界全体への関心を深めることにもなりました。スペイン語の記事を通して、「グローバル化とローカル化」を考えたことは強く印象に残っています。4年間の大学生活を通して培ったスペイン語圏の知識や関心は一生モノであり、今後社会人になっても学び続けていきたいと思っています。

【数学強化プログラム 履修生の声】

— 未知なる力 —

2012年度修了 渡邊 高平



数学は、難解な証明や公式が出てきて目をそらしたくなる方もいらっしゃるでしょう。しかし、それを理解することが出来たらどうでしょう。論理的な手順を踏むことによって解法を知ったり、他者の解法から学んだりすることによって、自分の見えてくる世界が広がっていきます。“数学”は未知なる力を私たちに与えてくれます。しかし、それを与えられるのは、このプログラムを修了した人のみ。諦めずに目の前の困難に立ち向かい、一歩ずつ着実に進み、最後のゴールを目指して走り続けられる方、ぜひ、履修してみてください。

2017年度修了 朝倉奈緒子



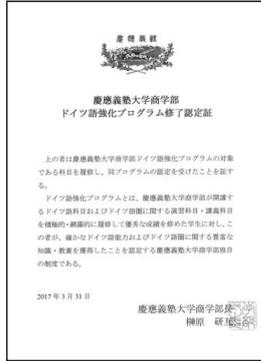
私は、「大学に進学したら学んだことを何か一つ残したい」と思い、また高校時代に数学が得意であったこともあり、より数学の力を伸ばしたいとも考え、数学強化プログラムに挑戦することを決めました。数学の授業では、ただ先生の話聞くだけのインプット型だけではなく、学生自身が前に立って数学の問題をどのように考えたのかをアウトプットする機会もあり、数学の奥深さを体感することができました。大学では自分次第でいろんなことに挑戦できる場です。この機会を最大限に活用すべきであると私は思いますし、少しでも興味があるならば強化プログラムに挑戦してみたいと思います。

認定証サンプル（日本語版と外国語版の両方を発行します。）

英語



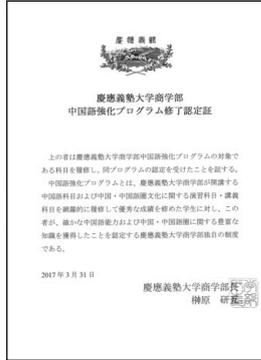
ドイツ語



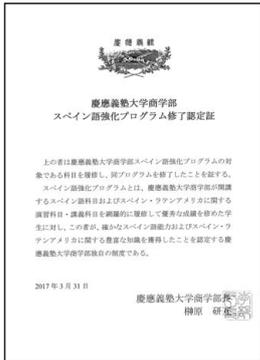
フランス語



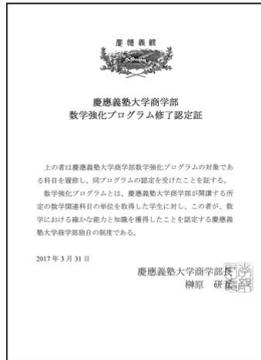
中国語



スペイン語



数学



認定科目は年度によって変更される場合もあるので、必要に応じて所定の手続を経て確認してください。

